

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四年十二月
由美子 ことは のぞみ 稀香 俊晴 修 かげろう			凡士	きいち	翔太		美枝子		由美子	京子 六弦		修		月を	
真夜中のサンタクロース右折待ち ドラマの歌詞になりそうなお洒落な句ですね。物語が見えてくる。子どもたちは夢の中、明日の朝がたのしみなことです。サンタを信じている子供の夢を破らない様にパパは扮装して家路に。とても楽しい句です。思わずくすくすとする面白さ。「右折待ち」が効いている。車で深夜帰宅のお父さんサンタ、仕事も家庭も大変です。	冬の日や瞼の裡を温める	千曲川遠かがやきにりんご食む	長考の果ての決断ふゆ座敷 竜王か棋聖か、勝負手がしづかに盤上に。	負うてみて分る重荷や虎落笛 季語と重荷の取り合わせが良い、背負う荷物の厳しさがひしひしと伝わる。	さざなみをゆりかごにして鴨眠る 「さざなみのゆりかご」が良い。	鍋の会すべらぬ話延延と	長々と三尸窘め夜凍てる 庚申の夜落語の噺も生まれました。	川の字がスキップ踏むや落葉時	よき声で我を起こすや寒雀 なんだかなつかしい。私も雀のかわいいい声で目覚めたい。	湯豆腐のところろでといふ胡坐かな 湯豆腐という簡単鍋料理に対して話題はちよつと複雑、腰を据えていきます。湯豆腐の湯気の力を借りて何を告白するのか、気になります。	早々とネオンつきたる冬至かな	しみじみと骨を震わせ京の冬 中七の措辞が秀逸。	冬浅し上野の森のピカソ展	ドーハより嬉しきニュースセロリ噛む 季語がいいです。	
石関六弦	秋谷風舎	本橋稀香	池田珪子	保坂翔太	しんい	青木鶴城	網野月を	新 曆文	新井史子	原洋一	茂樹	古賀由美子	木村るみ子	檜鼻ことは	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四年十二月
			美枝子 京子 いちい	のぞみ たか子 翔太		芳春	允孝	月を		るみ子 ひろし 俳翁 允孝 朝香 マスミ 風子 鶴城 たか子 俊晴		寒立馬		道を	
冬あたたか父子居眠り優先席	早駆て葱鉄砲に打たれけり	をりをりの俳諧深く息白し	冬紅葉鼻肩目当ての一幕見 季語の幹旋がとても良い。鼻肩役者は通して観ているが、また一幕見で観るものです。もうそんな贅沢をしてもよいかとの思いと冬紅葉の鮮やかさの取り合わせがよい。	年の瀬やハッピーエンドの本借りる 今年も色々あつたが、締めくくりはやはりハッピーエンドとしたものである。一年の区切りには、ハッピーエンドと分っている本がいろいろ。	冬の夜や星のおしやべり聞こえさう	仁左衛門のまねきが揚がり師走くる 師走の賑わいが歌舞伎の華やかさと共に伝わってきます。	吾が余生妻に勤労感謝の日 妻に余生を託す。それを感謝の気持ちで表す夫婦愛が本当にしみ出ている句ですね。	水深く夜灯の映す紅葉かな 深さに紅葉の紅が映えますね。	栗飯や漸く揃ひ家族の灯	LP盤にそつと針置くクリスマス LP版懐かしい。ステキなクリスマス。一人聴くソングは何でしょう。中七のそつと針置くに優しさがありません。LP盤の暖かい音色を聞いてクリスマス夜の夜を過ごす。LP盤の暖かい音色を郷愁をそそる言葉か。我が家にもまだ蓄音機があり何枚かのレコードもある。自分だけの豊かなクリスマス感が伝わる。古いLPレコードに何か若い時の思い出がありそう。古き良き時代を彷彿と蘇らせてくれる。昔のLPレコードをしみじみ聴くクリスマス夜の夜です。	光射す枯野に坐すや仄温し	埴輪の眸見上ぐ彼方の冬銀河 埴輪は銀河に何を見たのか。無常か希望か。	信濃路の山々眠り星冴ゆる	終バスや降車ボタンの冴え冴えと 最終バスの寂しさが良く表現されている。	
小林京子	森美枝子	望月のぞみ	丸山マスミ	霜里	俳翁	河野凡士	反町修	龍野ひろし	岡本たか子	渋谷きいち	後記朝香	光雲2	倉田詩子	立野音思	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四年十二月
ほのる 道を	しんいのぞみ 翔太 六弦 音思		稀香 音思				るみ子 圭子 寒立馬 凡士 風舎 朝香	しんい マスミ 茂樹		六弦 いちい		マスミ 鶴城 音思		ことは	
夫の忌や声した方に帰り花	肩書も名刺も不要日向ぼこ	平和なる朝寝や勤労感謝の日	嫁ぎゆく花嫁街道冬椿	十二月四季折々を生き抜いて	小春日や居眠りをする俄画家	おりがらみ記憶蕩ける年の宿	シヤッターの錆びて落葉の吹き溜まり	顔見世や子役大見得初舞台	明日も雪閑かさ破り炭はねる	一隅の仕事納めて仰ぐ空	円安は地球の叫び山眠る	咳ひとつ落としてよりの小言かな	「手伝ふ」は夫婦に禁句年の暮	朝一のまあるい顔よ花ハツ手	
中七を季語がしつかり受け止めている。さりげない中に深い愛情を感じます。	人生いろいろ、肩書返上の日向ぼこ。定年後の片肘を張らない生活が目に見えるようです。日向ぼこの季語が抜群。「一隅の」の表現が印象的です。今年も頑張りました。のんびりとこころの洗濯をする日向ぼこ、肩書も名刺も関係ない世界ですね。		花嫁と冬椿の凜とした美しさが浮かびます。白椿であって欲しい。見送る気持が冬椿という言葉に表されています。				コロナ禍シヤッター街が増えましたね。錆びてが良い。同じ経験があります。終には風が憎くなりました。子どもの頃賑わった故郷の本町、今はシヤッター通り、座五に哀愁が漂う。お店のシヤッターではなく、空き家になった民家のシヤッターだろう。「錆びて落葉の吹き溜まり」から、世相のもの寂しさが感じられる。古いシヤッターと落葉の吹き溜まりに冬の淋しさが表れている。今の日本の現状そのままと思えた。	注目の市川新之助襲名の初舞台ですね。13代目市川團十郎の襲名の舞台は、その子8代目新之助の初舞台でもあつた。堂々と「外郎売」見事に演じた。残念ながら、私はその舞台を未だ観ていないが。子役の真剣さを感じる。		「一隅の」の表現が印象的です。今年も頑張りました。精一杯生きる一隅から見上げる空は広いことでしょう。		何か小言を言いたいが、いきなりは言いにくい。咳払いしてから徐に口を切る。照れくささが微笑ましい。あるあるをうまく表現した句「おとして」が良い。心を決めてこれから話そうとする気持が「咳」という言葉に凝縮されています。	良き朝の始まりですね。		
新井史子	原洋一	檜鼻ことは	木村るみ子	古賀由美子	日高道を	山中いちい	ほのる	かげろう	寒立馬	岡田芳春	持永喜夫	後藤允孝	染谷風子	井口俊晴	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四年十二月
	曆文 珪子 喜夫 芳春		由美子	光雲2 茂樹	一葉 風舎 ほのる			ひろし	ひろし	喜夫 鶴城				ことは いちい	
「コチコチッ」と夜半の秒針去年今年	石路の花郵便受けにガムテープ	山茶花や古き童謡口遊ぶ	千代紙の包まる和菓子小春空	蠟梅や澄渡る朝香り立つ	不揃ひの肩が並ぶや大根畑	奮発の霜降り肉や大晦日	雪乗せし白きトラック橋の上	空海を臨書するなり文化の日	留め石はもやひ結びや石路の花	戒名は要らぬと決めて寒椿	ハートのAよりハートの10よ冬ぬくし	涙には勝ちと負け有り竜の玉	枯れすすき実らぬ恋を諦めず	足先に猫の爪ある置炬燵	
光雲2	渋谷きいち	後記朝香	石関六弦	倉田詩子	立野音思	本橋稀香	秋谷風舎	保坂翔太	しんい	池田珪子	網野月を	新曆文	青木鶴城	茂樹	
	最近、近所でも良く見る風景。中七下五はうら寂しく、それを上五が大きく包んでいます。郵便受けのガムテープ、去った人が慈しんだ花なのか、映画の一場面みたいです。誰も住んでいないのか投函を拒否する郵便受けと、石路の花の取合わせが秀逸。		千代紙に包まれた和菓子なんて。それだけでノックアウトです。	梅の可愛らしいともしびを朝日が透かし香り立つ景がみえる。いさぎよさが浮かびます。	家庭菜園でしようか、大根の出来不出来を「不揃ひの肩」と捉えた点がユニーク。大根の太さでもなく、長さでもなく、肩に着目したところが、斬新である。大根を人間に見立てたか、意味深長である。盛り上がった大根の立ち姿はいかにも肩っぽいです。					寒椿が潔いよいですね。潔さと寒椿の取り合わせが絶妙。				リアルな生活感がほのぼのとしていて好きです。先客がいたのですね。	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
修 たか子 寒立馬		凡士		暦文 しんい ほのる 茂樹	きいち 月を		俳翁	一葉 珪子 風舎 喜夫 朝香 かげろう		俳翁 かげろう				るみ子 光雲2 允孝 道を京
数へ日の数より多き為すことよ	熱爛の旨さ沁み入る寄席話	「ご苦労様」人それぞれの爛の酒	暮れてゆく匂ひなつかし十二月	死に水は剣菱にせよ寒牡丹	襟元を搔き合わせ溶く寒卵	古利根の朝日ほのぼの浮寝鳥	四阿に鳩も加はり日向ぼこ	受付にポインセチアと消毒器	佐渡さんの第九に酔うて年暮るる	夜冴えてビルの寝息や航空灯	耀へる樹々の枝枝雪の精	翁忌の外湯に星を仰ぎをり	枯芭蕉ぼろを纏ひて仁王立ち	還暦の青春切符冬の旅
後藤允孝	岡田芳春	持永喜夫	小林京子	染谷風子	井口俊晴	丸山マスマ	森美枝子	望月のぞみ	河野凡士	霜里	俳翁	岡本たか子	反町修	龍野ひろし

私も還暦の折友人と雪の秋田へ行きました。中七の青春切符と還暦が響き合っている感じがすね。還暦になっても青春時代は忘れられない思い出です。中七の青春切符にその思いが込められていますね。まだまだ頑張り出ますね。退職されたか閑職になられたのでしょうか、自由を再び手に入れました。

冬の夜空を航く機影。その下にビルが寝息を立てていると詠んだ心憎い措辞。擬人化が成功していて季語が引き立っている。

コロナ禍の暮れも三度目、時の流れを感じます。消毒器が無くなるのはいつの日か？今年の日本の12月をシンプルに表現していると思います。正に今の世相を素直に自然に切り取った。コロナに警戒しながらも、クリスマスモードが漂ってくる。どこの受付を詠んだのか想像するのも楽しい。暮れの受付、ポインセチアと消毒器が妙に合い、シニールです。コロナ禍の世を象徴した句。中七と坐五の取り合わせが秀逸。ほどよいあるある感。

鳩を措辞したことにより、平和さをしみじみ思う作者がそこにいる。

襟掻き合わすで、風邪引きの人と想像できる、生卵が効きますように。いろっぼいですね。

羨ましい、人生の終わりに言っていた見たいですね、剣菱にせよと。季語の寒牡丹、辛口のきりつとした剣菱に合っていて、又それが死に水にとは、共感しました。銘柄の剣菱が命令形にびしりと合っている。滑稽味もあります。

コロナ三年目、今年もおもいどうりにならなかったが、何はともあれ「ご苦労様」。

年末の忙しさを上手く表現。正月まで数日残すのみとなったが、未だ未だやるこしとが多過ぎる。庶民の暮の忙しさを上手く詠んでいる。生きているという実感なのか。

										80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四年十二月
										美枝子 一葉 風子 芳春	きいち		文 風子 稀香 俊晴		
										言う言わぬ許す許さぬ毛糸編む	山々に獣彷徨ふ十二月	寒の夜光を増した星を見た	からっ風違反切符の薄っぺら	河豚食ふや古人の勇氣尊べり	
										山中いちい	日高道を	寒立馬	ほのる	かげろう	

美枝子
一葉
風子
芳春

きいち

文
風子
稀香
俊晴

言う言わぬ許す許さぬ毛糸編む
こいう時には編み物もはかどりますね。一目編む毎に「言う」「言わぬ」「許す」「許さぬ」と心の迷いに揺れる様子がよく伝わってくる。ひたすら耐えて黙して、その相手のためにセーターを編んでいる姿がいじらしい。悶々とした感情を季語が巧みに伝えてくれています。

山々に獣彷徨ふ十二月
熊、猪、猿と里へ降りて来ないことを祈るばかりです、漢字で綴る緊張感が良い。

寒の夜光を増した星を見た

からっ風違反切符の薄っぺら
フロントガラスに貼ってある違反切符、確かに薄っぺら。空の風に負けぬ元気が口語表記に合っている。但しスピード違反はほどほどに。違反切符を切られた実体験でしょうか、空の風の季語がぴつたりです。お巡りさんの態度に腹を立つのかな。怒らない怒らない。

河豚食ふや古人の勇氣尊べり